

十勝リハビリテーションセンター

2023年 秋号

REHAMAGA



症例紹介 脳卒中編／脳梗塞後の左片麻痺

 社会医療法人 北斗
十勝リハビリテーションセンター

概要

- **年齢・性別** 70歳代／女性
- **診断名・障がい名** 右脳梗塞／左片麻痺
- **現病歴・経過** 作業中に眩暈、左上下肢しびれ、感覚鈍麻出現し急性期病院受診にて脳梗塞の所見。翌日に左片麻痺出現。その後、徐々に麻痺は改善傾向だが残存。20病日にリハビリ目的で当センター入院
- **病前生活** 元々1人暮らしで、仕事もされており、健康に気を遣って運動も行う活発な方です。
- **ご本人の希望** 「また一人暮らしがしたい」「出来るだけ家事も出来るようになりたい」

先進リハビリ機器による歩行訓練



L300



welwalk

訓練内容

歩行機能改善に向けた最新治療も活用した理学療法

ご本人さまの目指す一人暮らしに向け、早期の歩行自立を目指し、基本的な運動療法に加え、最新のリハビリテーション機器である、歩行支援ロボット(welwalk)や電気刺激治療器(L300)も活用し、効率的で集中的な理学療法を実施。

先進リハビリ機器による上肢訓練



AMADEO



ReoGo-J

訓練内容

上肢機能改善・IADL動作獲得に向けた最新治療も活用した作業療法

ご本人さまの希望する調理などの家事動作再獲得に向け、麻痺側上肢の機能改善による両手動作獲得を目指し、基本的な作業療法に加え、最新のリハビリテーション機器である、上肢用ロボット(ReoGo-J・AMADEO)や電気刺激治療器(IVES)も活用し、効率的で集中的な上肢訓練を実施。

上肢訓練や家事動作訓練



訓練内容

自主練習や多職種が連携した生活の中でのリハビリテーション

早期の機能回復、在宅退院に向け、生活の中で歩行器機会を増やしていけるよう、安全に行える自主訓練の提案や、看護師・介護士との多職種連携を実施。

Before & After

20病日(入院時)

左上下肢に運動麻痺と感覚障害があり、座位保持は可能も立ち上がりや立位保持には手すりが必要。日常生活は立位バランスの低下から車椅子で見守り～一部介助が必要で、車椅子への移乗やトイレ動作には付き添いや介助が必要。リハビリで歩行訓練は行っていたが転倒リスクがあり介助が必要。左上肢の麻痺は重度で手指は僅かに動く程度で日常生活では使用出来ていない。

入院
45日後

65病日(入院1ヵ月半後)

左上下肢に運動麻痺に改善がみられ、立ち上がりや立位保持は手すりなくても可能。日常生活は立位バランスや歩行機能の改善から短距離の杖歩行が自立し、トイレや更衣など入浴以外の日常生活道が自立。左上肢での摘み動作や握り動作が可能となり、両手で薬の袋を開けたり、が可能となり、日常生活場面での使用頻度が向上。

当症例に関わったそれぞれの担当者からのコメント

理学療法士より

ご本人様はリハビリ意欲が高く、自主的に歩行練習やストレッチなどを行ってくださっているので、より効果的な方法などをリハビリ時間にアドバイスしています。主な治療内容は、麻痺側下肢のコンディショニング、荷重練習、バランス練習、歩行練習など実施しています。また、先進機器のWelwalkや電気刺激療法などを併用しています。患者様の身体機能の評価・治療を進めていく中で、背景を把握することや何気ない会話のなかで信頼関係を築き、コミュニケーションを大切にしながら関わることを心がけています。



伊澤 琉奈

作業療法士より

入院時から、日常生活動作や家事動作の獲得に向けて、ロボットや電気刺激等も併用しながら集中的に上肢機能訓練を行ってきました。また、自主練習を指導し、リハビリ以外の時間を効率的に利用できるよう工夫していました。入院当初は重度麻痺により、生活場面で左手を使用することがありませんでしたが、入院後1ヵ月半を経過した現在は、物をつまんで押さえるなど、左手を一部補助的に使用できるまで改善が見られています。病棟では実際に洗濯などもご自身で行っており、ADL場面では特に積極的に左手を使用してくれています。



恩田 祐衣

ご本人さまの感想

当院のリハビリテーションを受けてみて

言葉に出来ない、心の景色にも向き合って下さる、温かさにも励まされ、楽しく無理の無いリハビリの日々。気付けば笑いながら歩いていることに感動!!!
生き抜くバトンをつなぐ「力」を応援して頂いていることに、心から感謝しております。本当にありがとうございます。

TOKACHI REHABILITATION CENTER INFORMATION

Prediction One 導入について



脳卒中歩行令和5年度上半期



脳卒中歩行実際の予測場面例

「Prediction One」とはソニーが提供しているAIを活用した予測分析ツールです。ヤフーや麒麟ビールなど多くの会社でコンテンツの予測や出荷予測などに活用されています。

当センターでは、入院時に服の着替えや食事などの日常生活動作の到達度や歩いて帰ることが出来るか、トイレに一人でいけるかなどの退院時の予測の活用に医療業界で先駆けてPrediction Oneを導入しました。現在、予測を行う一助として活用することにより予測精度が80%程度と高い予測精度が得られています。

今後は、社会的問題となっている高齢者運転における危険性の予測や、退院時点での歩く姿の予測などに活用できないかを検討し取り組んでいます。Prediction Oneはこれから医療業界でも広く活用されることが期待されています。



社会医療法人 北斗

十勝リハビリテーションセンター



〒080-0833 帯広市稲田町基線2番地1

☎ **0155-47-5700**

FAX 0155-47-5701

[お電話対応時間 9:00~17:00、土曜は12:00まで]

- 帯広駅から車でおよそ20分
- 十勝バス「十勝リハビリテーション前」より徒歩2分